

# 令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちらボ

## 1 事業年度内の理事会・総会開催概要

### ①理事会

- ・平成31年4月1日  
開催場所：みなし決議  
出席者数：理事2名（理事人数 3名）  
議決事項の概要：理事矢田明子氏との業務委託契約の締結について
- ・令和元年5月23日  
開催場所：三日市ラボ  
出席者数：理事3名、監事1名（理事人数 3名）  
議決事項の概要：第6期事業報告および収支決算について  
第7期事業計画および予算案について  
定時社員総会の収集について
- ・令和元年11月5日  
開催場所：オンライン会議システム  
出席者数：理事3名（理事人数 3名）  
議決事項の概要：個人情報保護適正管理規定の制定について  
就業規則改訂について
- ・令和2年3月27日  
開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム  
出席者数：理事3名（理事人数 3名）  
議決事項の概要：第8期事業計画及び予算案について  
退職金支給に関する諸規程の制定及び改定について  
退職慰労金について

### ②総会

- ・令和元年5月29日  
開催場所：三日市ラボ  
出席者数：8名（うち表決委任者2名）／正会員数 11名  
議決事項の概要：第6期収支決算について

## 2 事業の概要および成果 別紙参照

### 3 事業の実施に関する事項

#### ①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)		従事者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31		4名	経常収益 23,192,711 経常費用 ▲22,602,014 収支合計 <b>590,697</b>

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	1,001,000	689,400
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲338,625
収支合計	<b>1,001,000</b>	<b>350,775</b>

#### ②その他事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)		従事者数	事業費 (単位：円)
三日市ラボ 管理事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31		1名	経常収益 1,414,362 経常費用 ▲1,677,903 収支合計 <b>△263,541</b>

以上のほか、次の事業を実施した。

	商品販売事業
経常収益	109,050
経常費用 (人件費除く)	▲94,579
収支合計	<b>14,471</b>

## 令和元年度 特定非営利活動法人おっちラボ 事業報告書

### 【目 次】

1. 事業のねらい
2. 前年度までの実績
3. 事業実施体制
4. 事業実施内容とその成果
5. 今後の取り組み及び課題

### 主な事業の成果

事業名	成果
幸雲南塾2019	参加者は途中入塾者も合わせると4組34名。うち2組が一般法人を設立、1組が事業実施のための資金調達を行った。残る1組も継続して啓発イベントを実施するなどし、各チームが未来の雲南に必要な仕組みづくりを主体的に継続している。
幸雲南塾アカデミー	参加者は昨年度から49人増え、延べ194名だった。アカデミー開催によって、話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続するなどアクションに繋がっている。
スペシャルチャレンジ・ホープ事業	前期採択者1名は6地域自主組織および1市内事業所とのプロジェクト協働を開始し、後期採択者3組は採択期間が短かった中でできる限りの実践を試みた。何れも事業による地域への波及効果が期待できるが、制度による効果をさらに大きくするため、次年度以降、事業のブラッシュアップ期間及び採択期間をより多く確保できる制度設計に改良する契機となった。
ローカルベンチャー協議会	協議会や同プログラムを通じた雲南エリアでのチャレンジ6件（※）、調整中案件6件（※）、研究プロジェクト3件。
三日市ラボ活用	1階の利用は2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。

※企業チャレンジを含む。

## 1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ132名の卒業生（ラボアカデミー修了者を含む）を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題にチャレンジする若者を発掘・育成した。また、さらに幅広く市民にまちづくりに興味を持ってもらう機会として、幸雲南塾アカデミーを昨年度に引き続き開催した。

また雲南市が昨年度から開始したスペシャルチャレンジ制度のうち、ホープ事業の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走（補助）を行った。

さらに、ローカルベンチャー推進協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

## 2. 前年度までの主な実績

平成23（2011）年度 雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）

平成24（2012）年度 第2期（11名卒業）

平成25（2013）年度 第3期（11名卒業）、塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立

平成26（2014）年度 第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立

平成27（2015）年度 第5期 幸雲南塾（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）

平成28（2016）年度 第6期（2016年5月～2017年2月）  
幸雲南塾（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）

平成29（2017）年度 第7期（2017年6月～2018年1月）  
幸雲南塾（4法人11名卒業）

平成30（2018）年度 第8期（2018年6月～2019年1月）  
幸雲南塾（1名）幸雲南塾START（6組7名修了）

平成31・令和元（2019）年度 第9期（2019年7月～2020年1月）  
幸雲南塾（4組34名）

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～』は、今年度で9期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

#### <卒業生の活躍>

2018年度末時点で4法人88名（ラボアカデミー修了者を加えると延べ132名）の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、今年度は、卒業生が再度幸雲南塾に入塾し、進めている事業のさらなる進化を目的に切磋琢磨する動きもあり、幸雲南塾がチャレンジのプラットフォームとなっているように感じている。

#### <プログラムのリニューアル>

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

今年度は個々のチャレンジがより促進される「仕組み」をつくることに注力できるようプログラムを再構築し、事務局は仕組みづくりにチャレンジするチームが効果的に活動を進めるためのサポーターという立ち位置から支援をおこなった。今期の『幸雲南塾2019』は、会議体組成支援を通じて暮らしと地域をよりよくするための仕組みづくりを支援し、また個別のチャレンジの相互相談窓口として塾生以外も参加できる『チャレンジーズカフェ』、広く学習や交流機会を創出する『幸雲南塾アカデミー』などのプログラムも実施した。また、NPO法人ETIC.が主催をするローカルベンチャー推進協議会も活用し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジヤーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。

### 3. 事業実施体制

#### (1)コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

<コーディネータープロフィール>

小侯健三郎	(配置理由) 1981年東京都生まれ。平成27年5月に雲南市へ1ターン。東京で弁護士として働いており、ビジネスモデル立ち上げの際に法務的な支援が可能なこと、NPOや社会起業家との人脈があり(新進気鋭のNPOが多数加盟する新公益連盟の監事を務めている)、都市と雲南のパイプ役を担えること。
平井佑佳	(配置理由) 1989年雲南市生まれ。幸雲南塾4期生で、准認定ファンドレイザー、厚生労働省認定キャリアコンサルタント取得、平成27年度より当法人にて若者チャレンジ支援コーディネーターを補助して幸雲南塾生を支援してきたこと。また同年度後期に、雲南市出身者を中心としたボランティアを巻き込み、地域自主組織の課題に関するフィールドワークをコーディネートした実績など。
村上尚実	(配置理由) 1991年島根県生まれ。学生時代に被災地を訪問するプロジェクトの島根県代表をするなど社会貢献活動の中心となった経験があり、社会福祉法人での勤務経験があることから、市内の福祉関係者との連携を担えることなど。
小林彩	(配置理由) 1980年千葉県生まれ。幸雲南塾4期生。理学博士として研究職に就いていた経験から、研究機関と連携を図れること。前職が市内地域自主組織での地域づくり応援隊であったことから、地域の実情を踏まえたコーディネートが期待できること。

(2)外部アドバイザー

<外部アドバイザープロフィール>

a. ファンドレイジング(資金調達)、組織マネジメント等のアドバイザー  
山元 圭太 氏(合同会社喜代七代表)

経歴	1982年滋賀県生まれ。同志社大学卒業後、経営コンサルティングファームで主に組織人事分野のコンサルタントとして、5年間勤務の後、2009年4月にかものはしプロジェクトに入社。日本部門の事業全般(ファンドレイジング・広報・経営管理)の統括を担当。「社会起業塾イニシアティブ(NEC社会起業塾)コーディネーター」「内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業 みちのく起業コーディネーター」として、日本各地のソーシャルベンチャーやNPOの支援も行なっている。2016年より株式会社PubliCo代表取締役COO、2018年より合同会社喜代七代表取締役。
雲南市との関わり	地域づくり勉強会「地域型ファンドレイジングを学ぶ会」(2014年)、幸雲南塾第4期最終報告会審査員・ワールドカフェファシリテーター(2014年)、2015年1月~2015年3月「社会起業のためのマネジメントスクール」講師。当NPOのファンドレイジング、組織運営マネジメント、ボランティアマネジメントなどに対するアドバイス専門官として理事も務める。平成27年度より雲南市地方創生総合戦略推進アドバイザーに就任。
移転するノウハウ	ファンドレイジング(資金調達)、運営マネジメント、事業計画立案、組織基盤強化に関するノウハウ

b. マネタイズ（収益事業化）のアドバイザー  
友廣 裕一 氏（一般社団法人つむぎや 代表理事）

経歴	1984年大阪府生まれ。早稲田大学卒業後、日本全国70以上の農山漁村を訪ねる旅「ムラアカリをゆく」へ。東日本大震災以降は宮城県石巻市・牡鹿半島の漁家の女性たちとともに浜の弁当屋「ぼっぼら食堂」や、鹿の角を使ったアクセサリ「OCICA」などの事業を立ち上げる。アジアでコミュニティのあり方を考える「SEED Project」の企画、自由大学「地域とつながる仕事」モデレーター、雑誌での連載等も行う。株式会社アミタ持続可能経済研究所 アソシエイト・フェロー。農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」アドバイザー。内閣府地方創生推進室認定地域活性化伝道師。
雲南市との関わり	幸雲南塾4期（2014年）第2回講師。中山間支援人材育成事業（2014年）講師。塾卒業生とも良好な関係性が構築されており、マネタイズのノウハウを移転するに際し、最適なアドバイザーとして推薦した。
移転するノウハウ	地域資源の活用、コミュニティビジネスの立ち上げ、マネタイズ（収益事業化）に関するノウハウ

#### 4. 事業実施内容とその成果

令和元年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

- 4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画運営
- 4.2. 幸雲南塾アカデミー（有志勉強会）の企画・運営
- 4.3. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.5. 実践型インターンシップの活用
- 4.6. 三日市ラボの運営
- 4.7. コーディネーターの支援力向上

##### 4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画・運営

「幸雲南塾2019」は、昨年に引き続き伴走型人材育成プログラムとして、おっちラボスタッフがコーディネーターとして、3ヶ月から6ヶ月間会議体組成支援を行った。各チームが仕組みの実現に向けて「自律的に活動できる状態」になることを目指す、実践家育成の塾として開講した。

塾生の募集に関して、今期は「幸雲南塾2019開講特別講座」として事前説明会を実施した。開講講座の参加者は講演やワークを通じ地域の未来とそこに必要な仕組みについて考え、意見を交わした。

参加者はその後、「地域に生み出したいインパクト（課題の重要性・緊急性、受益者数、他地域への波及性などの要素から総合的に判断）」とそれに必要な仕組みを、主体的に継続協議/実行するチームの組成を行ったうえで、入塾するか否かを選択し、事務局はそれに基づき参加者との関わり方を検討するという、相互選考を行った。

その結果、事前説明会に参加した参加者から、住民誰もが地域づくりに関わることが出来る仕組みづくりや、安心安全な地域づくりのためのエネルギー自給の仕掛

けについて調査検討する2組を塾生として選出した。

その後11月からは、高校生の地域活動を促進するための地域通貨を活用した仕掛けづくりや、大学生インターンの受け入れ事業の継続実施のための民間事業化などに取り組むための2組を主催側と協議のうえ塾生として選出した。

また、幸雲南塾がチーム制であることなどから、本年度は「チャレンジャーズカフェ」を開始した。チームを組成するまでではない個人など、幸雲南塾に入塾する手前のチャレンジャーが気軽にチャレンジについて話し、相談し合う場として月に一度4ヶ月間実施した。

### <事業のねらい>

- (1)社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成
- (2)若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

<塾生> 幸雲南塾（前期入塾）：2組27名、幸雲南塾（後期入塾）：2組7名

### 【実施内容・幸雲南塾】

月	日	取り組み実施内容								
6月	30日 (日)	幸雲南塾2019開講記念講座 ◎目指すゴール：幸雲南塾入塾候補チームが複数組成される								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象（優先順）</th> <th>目指す状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)今年の幸雲南塾の候補テーマへの関心/活動者 例)コミュニティ財団設立準備委員会 坂本美緒さん おたがいさま雲南さん 林業関係者・関心者 芸術関係者</td> <td>・幸雲南塾入塾に向けた、継続して主体的に協議を行うチームを結成する ・活動の次のステップが見える</td> </tr> <tr> <td>(2)上記チームメンバー候補</td> <td>上記チームへ参画する</td> </tr> <tr> <td>(3)さらに広いフォロワー層（市民）</td> <td>継続して関心を持つ →幸雲南塾アカデミーなどに参加する</td> </tr> </tbody> </table>	対象（優先順）	目指す状態	(1)今年の幸雲南塾の候補テーマへの関心/活動者 例)コミュニティ財団設立準備委員会 坂本美緒さん おたがいさま雲南さん 林業関係者・関心者 芸術関係者	・幸雲南塾入塾に向けた、継続して主体的に協議を行うチームを結成する ・活動の次のステップが見える	(2)上記チームメンバー候補	上記チームへ参画する	(3)さらに広いフォロワー層（市民）	継続して関心を持つ →幸雲南塾アカデミーなどに参加する
		対象（優先順）	目指す状態							
		(1)今年の幸雲南塾の候補テーマへの関心/活動者 例)コミュニティ財団設立準備委員会 坂本美緒さん おたがいさま雲南さん 林業関係者・関心者 芸術関係者	・幸雲南塾入塾に向けた、継続して主体的に協議を行うチームを結成する ・活動の次のステップが見える							
(2)上記チームメンバー候補	上記チームへ参画する									
(3)さらに広いフォロワー層（市民）	継続して関心を持つ →幸雲南塾アカデミーなどに参加する									
◎方向性 雲南の未来と、そこから逆算して今必要なものは何かを具体的に想像し、実現に向けて話し合いたいというムードを高める。 →実際にチームを作る（チャレンジの生態系） ・まちの可能性を開花させる ・子や孫に残す雲南を考える時間										
7月	28日 (日)	開講講座よりこの日まで、塾応募期間 →2組が応募、審査の上入塾（前期）								
8月	9日 (土) ～ 10日 (日)	幸雲南塾キックオフ合宿 ◎目的 ・共有ビジョンを描く（この仲間で何をどれくらい目指すか） ・テーマゼミの仲間の望みを知る ◎内容								

		NPO法人CRファクトリーより五井利明氏を講師に迎え、入塾した2チームにそれぞれに対し、自己開示のワークショップおよび対話を通じたチームビルディング支援を行った。
10月	24日	年度途中より入塾相談を受けていた2組が入塾（後期）
11月	17日 (日)	雲南市役所主催「雲南ソーシャルチャレンジ大発表会」 ・"チャレンジャーズピッチ"にて、ぐるぐるもりもりチームが発表 ・"チャレンジワークショップ"にて、うんなん市民財団（仮）設立準備プロジェクトがワークショップ開催、および別途ブース出展
12月～1月		幸雲南塾2019最終報告会に向けた発表練習
2020年 1月	25日 (土)	幸雲南塾2019最終報告会 ◎目的 塾参加チームそれぞれの参画者を増やす ・増やしたい参画者 →市民財団：寄付者 →ぐるぐるもりもりチーム：上映会来場者 →地域通貨：高校生に手伝って欲しいアイデア提供してくれる人 →U.C.C：インターン応援者 ◎内容 ・4チーム塾生発表 ・パネルディスカッション 「"チャレンジが生まれるまち"を支えるフォロワーとは」 ・ブースセッション ・修了式 ・交流会 →幸雲南塾2期生 橋本潤氏によるドリンク提供 →幸雲南塾5期生 多賀法華氏 企画の演劇公演 (劇団ハタチ族 西藤将人氏による演劇)

### <プランおよび個別支援>

今期の塾では、4組の塾生に対し支援を実施した。

おっちラボスタッフによる支援に加え、別途NPO法人CRファクトリーが各チームに対し、直接コミュニティ（チーム）形成支援を数回（前期入塾2組に対して8月※上記参照・11月・3月、後期入塾1組に対して11月）実施するとともに、チーム支援に対しておっちラボスタッフとも面談を行い、種々の助言を受けた。

チーム名 (チームメンバー) 【プラン】	支援内容
ぐるぐるもりもりチーム (坂本美緒・岩本桃子・森えりか) 【雲南市におけるエネルギー自給の仕組みについて検討】	■9月より、チーム中心メンバーである吉井氏へ対して週一回の定期面談を実施。進捗の共有に加え、ビジョンの整理やプランの具現化に向けた様々な実践を促すエンパワメントの場とした。 ■心身の健康をもたらす関係支援について高木奈美氏（産前産後ケアはぐ）宮本裕司氏（コミュニティナー

	<p>ス)と接続、面談。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■エネルギー事業に関する情報収集を目的として、「おだやかな革命サミット（都内開催）」への参加費および交通費補助。</li> <li>■チームメンバーのビジョン設定とその提供価値に関し、株式会社エンパブリック広石拓司氏と面談。</li> <li>■多様な働き方を学ぶため、ローズマリー合同会社とおぞら福祉会へ接続。</li> <li>■エネルギー事業に関する現地アドバイスと関心層への啓発のため、えねみらとっとり手塚智子氏・コミュニティエナジー株式会社代表南原順氏を招聘し勉強会を実施。</li> </ul>
<p><u>うんなん市民財団（仮） 設立プロジェクトチーム</u> （上田航平、太田直宏、小俣健三郎、亀山幹夫、小林彩、岸本寛子、郷原剛志、小山久紀、坂中寛平、澤村脩、曾田周平、そんさんひょん、土屋悦子、土屋博紀、寺田博英、錦織齊子、堀江智浩、平井千夏、平井佑佳、松蔭佳子、宮本裕司、村上尚実、森脇守、吉岡幸浩）</p> <p>【雲南市におけるコミュニティ財団の設立】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■アドバイザーとして、石原達也氏（みんなでつくる財団おかやま理事・全国コミュニティ財団協会常務理事・事務局長）と月に一度面談を実施。設立に向けて様々な助言を受けた。</li> <li>■「東近江三方よし基金」および「みんなでつくる財団おかやま」への先進事例視察費補助。</li> <li>■愛知県で開催された「全国コミュニティ財団協会6回年次大会」への参加に伴い、旅費の補助。</li> <li>■次年度以降設立するコミュニティ財団の運営等に関し、公益財団法人京都地域創造基金の可児卓馬氏へ相談。助言を受けた。</li> </ul>
<p><u>コミュニティ通貨導入検討チーム</u> （岡晴信、小俣健三郎、福島勇樹、山田雄介）</p> <p>【雲南市におけるコミュニティ通貨導入】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニティ通貨の設計と導入の実践者である株式会社カヤックの佐藤純一氏、長田拓氏と9月（鎌倉）、11月、12月（オンライン）、2月に面談を実施。</li> <li>■コミュニティ通貨のプロトタイプ制作に向けた資金調達に関して、一般財団法人社会変革推進財団の加藤有也氏、古市奏文氏と12月、1月、2月、3月に打ち合わせ。一部は上記カヤックとの面談に同席。</li> </ul>
<p><u>U.C.C.チーム</u> （岡部有美子、武田遼太、山下美里）</p> <p>【Unnan Community Campusの民営化検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実践型インターンシップ活用等に関し、認定NPO法人ETICの伊藤淳司氏と瀬沼希望氏と面談を実施。</li> <li>■実践型インターン事業の経営について株式会社御祓川の森山奈美氏と面談を実施。</li> <li>■事業立ち上げについて、当法人副代表理事矢田明子と面談を実施。</li> </ul>

### <主な成果>

#### (1) ぐるぐるもりもりチーム

チームで実現したい世界観を共有し、仲間を見つけるために12月2月に勉強会とワークショップ、3月にプランに関連する映画上映会を実施。今後も継続してイベント等を実施していく見込み。

#### (2) うんなん市民財団(仮) 設立プロジェクトチーム

財団設立に向けて基本財産300万円の寄付キャンペーンを12月28日「はじまりのはじまりの会」から開始。キャンペーン最終日である2月29日目標金額に達成し、「一般財団法人うんなんコミュニティ財団」設立に向け手続きを進めている。

#### (3) コミュニティ通貨導入検討チーム

キャリア教育に関わるメンバー、高校生、地域課題にチャレンジする人材に伴走するメンバー、企業の地域課題解決に伴走するメンバーで構想を検討し、プロトタイプのコアとなるテーマを「高校生のチャレンジ促進」と定めた。アプリ開発担当者とも協議を重ねて、ActcoinというSDGs推進の仮想通貨を運営する会社との提携の方針を決めた。また、プロトタイプ開発のための助成金500万円を獲得。

#### (4) U.C.C.チーム

次年度運営資金のクラウドファンディングを2月より開始。

「一般社団法人コミュニティキャリアーズ」設立に向け手続きを進めている。

### 【実施内容・チャレンジャーズカフェ】

月	日	取り組み実施内容 (参加者相談内容等)	参加者 (スタッフ含まず)
6月	19日 (水)	・松江などを中心に開催しているものづくりWSの開催場所や参加者層の開拓について(山岡さん)	6名 (うち市外からの参加3名)
7月	20日 (土)	・保育士としての今後と地域貢献の仕方について(小村さん)	2名 (うち市外からの参加1名)
8月	21日 (水)	・開催する防災啓発イベントの告知方法などについて(小林さん)	7名 (うち市外からの参加1名)
9月	21日 (土)	・幸雲南塾での活動について意見交換(坂本さん)	3名 (うち市外からの参加2名)

### <主な成果>

全4回実施した本企画にはのべ18名が参加(うち市外参加7名)し、それぞれの活動について共有・相談を行った。

●6月参加者が三日市ラボにて工作WSを実施。出雲市から三日市ラボ初来訪者が参加。

●8月は幸雲南塾OBの橋本氏に料理提供を依頼。それを契機となり市内でスパイスをつかった商品開発に取り組む山田健太郎氏と商品開発ミーティングを3回実施。山田氏は今年度商品開発のための助成金を取得し、事業化に取り組む。

●9月参加者のうち1名が、当企画での相談をきっかけにコミュニティ財団立ち上げに関してプロボノボランティアとして関わりを継続している。

#### 4.2. 幸雲南塾アカデミーの企画・運営

起業や事業を興すまでではないが、地域を良くする取り組みを学びたい・参画したい、というニーズに対応するため、地域を知る・学ぶ「はじめの一步」の場として、講義形式で学び考える機会となる幸雲南塾アカデミーという勉強会を実施した。

##### <事業のねらい>

- (1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大
- (2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

昨年度に引き続き、ローカルチャレンジャーの次の活動に繋げるための学びの場を設計した。

今年度は、幸雲南塾のテーマでもある「まちの可能性を開花させる」「子や孫に残す雲南を考える時間」と同義である、誰も取り残さない持続可能な開発目標であるSDGsをテーマとした。国連は持続可能で安定した社会をつくるため、地球に住む全ての人たちに具体的な行動を求めているが、すでに地域ではローカルチャレンジャーが安心安全な社会をつくっていきこうと様々な取り組みがされている。一方で、その取り組みが地域で高い認知度でないこともある。社会の課題やそれに取り組むローカルチャレンジャーを知り、課題について考え、そして参加者自身も小さなことから実践するチャレンジャーになる、その一步を踏み出す機会として開催した。

幸雲南塾アカデミーは、より身近な市内チャレンジャーによる話題提供及びワークをする「楽しいまちづくりを考えてみる会」と、日本で先進的な活動をする市外チャレンジャーによる講演及びワークをする「幸雲南塾アカデミー」に分けて実施した。当日は、雲南や日本各地の現状や課題を共有する時間と、私たちが目指す雲南はどのようなものか、そこに向かうためにはどう楽しく取り組むことができるか等を考え出し合うワークを実施し、具体的に個人及び話題提供者と繋がり次の一步をどう踏み出すかを考えた。

##### 【実施内容・市内実践者】

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
4月	14日 (日)	雲南のチャレンジと木次乳業の歴史を味わう朝食会 話者：佐藤満氏（雲南市役所政策企画課部長） 雲南が誇る先輩チャレンジャー、「戦後社会教育の開拓者」とたたえられた旧日登中学校校長の加藤歓一郎先生と、木次乳業創業者の佐藤忠吉さん。お二人のチャレンジの歴史を学ぶ。	16 (8)
7月	8日 (月)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.1 ～森林活用・食～ 話題提供者：舩木海氏（フリーランス木こり）、深町桂市氏（Naofarm） 場所：アルメ	12 (4)
8月	8日 (木)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.2 ～繋がりづくり・就農～	12 (7)

		話題提供者：池田隆史氏（NPO法人カタリバ）、吾郷篤史氏（あごうや農園） 場所：おんせんキャンパス	
9月	6日 (金)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.3 ～難病の方のサポート・男共同参画～ 話題提供者：女鹿田陽氏、岸本寛子氏 場所：下熊谷交流センター	9 (4)
10月	9日 (水)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.4 ～産前産後ケア・中山間地域の移動～ 話題提供者：高木奈美氏（産前産後ケアはぐ）、上代悟史氏（株式会社かみしろ）、土屋悦子氏（おたがいさま雲南） 場所：八日市交流センター	8 (1)
12月	13日 (金)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.5 ～ひきこもりの方の支援・蓄電器～ 話題提供者：土屋博紀氏（雲南市社会福祉協議会）、影山邦人氏（アエラ地域文化デザイン室） 場所：海潮交流センター	9 (1)
2月	27日 (木)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.6 ～学ぶことと働くこと、循環する商品と経済～ 話題提供者：山下実里氏、森山史朗氏 場所：尺の内農園	29

**【実施内容・県外講師】**

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
5月	16日 (月)	多世代が参加したくなる地域活動を企画する！～イベント企画で活かす"コミュニティデザイン"の手法～ 講師：丸毛幸太郎氏ほか4名（NPO法人Co.to.hana） "多様な人と人とのつながり"をつくるためのイベント企画のポイントを学び、参加者同士で語り合いながら、自分たちの企画のあり方を考える。 場所：三新塔交流センター	26 (10)
7月	25日 (木)	森のまち北海道下川町から学ぶ！環境と経済を両立させるまちづくり 講師：麻生翼氏（NPO法人森の生活） 下川町の森林活用などの事例から、環境と経済を両立させるまちづくりやSDGsについて学ぶ。 場所：三新塔交流センター	19 (10)

9月	27日 (金)	ごみは無くせる！～ごみゼロのまち徳島県上勝町の取り組みから～ 講師：坂野晶氏（NPO法人ゼロ・ウェイスト） ゴミ収集車や収集業者が存在しないながらも、リサイクル率81%を誇る徳島県上勝町。その経緯や取り組みを学び、自分たちにできることは何か考える。 場所：春殖交流センター	16 (4)
10月	20日 (日)	多様なセクターで協働を成功に導く～持続可能な社会のために～ 講師：広石拓司氏（株式会社エンパブリック） 様々な要素が絡み合い複雑性が増していく社会において、立場や見方・捉え方の違う多様なセクターで協働して課題解決を目指してきた実例を学ぶ。 場所：掛合交流センター	10 (2)
11月	2日 (土)	「助けてあげる」から「一緒につくる」へ～難民の友人とカラフルな未来をつくろう！～ 講師：渡部カンコロンゴ清花氏（NPO法人WELgee）、J Marc Matusisa氏 様々な事情により自らの国を追われ、日本にいられた方々を巡る現状を学び、ともに社会を創る友人たちについて知る機会とする。 場所：多文化カフェSoban	13 (1)
3	25日 (水)	認定NPO法人カタリバから学ぶ！子どもの居場所と緊急時の支援 講師：山田雄介氏（認定NPO法人カタリバ） 子どもの居場所づくりと緊急時の支援について振り返り、今後を検討する。 場所：三日市ラボ（動画配信）	15

### <成果>

#### (1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大

参加は、昨年度の145人より49人増え、延べ194名だった。また、参加者の中から次のような実践が生まれた。

- ・ 話題提供をしたローカルチャレンジャーが新たに勉強会を主催
- ・ 話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続
- ・ 参加者（経営者）が自社で産前産後ケア研修導入
- ・ 今期塾生がアカデミーにて主催イベントの周知をきっかけに3名参加
- ・ アカデミー参加者の呼びかけにより、事業者が来年度環境への取り組み（ゼロウェイスト認証等）を検討

#### (2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

今年度、新規のアカデミー参加者は52名だった。参加者の参加きっかけの理由としては「食」や「親しんでいる場所」が要因として挙げられる。社会参画のきっかけが少ない人の生活の導線の中にこのような場を設けることがポイントであると考えられる。

#### 4.3. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

昨年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限100万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対し地域課題解決に向けて開催した協働会議にかかわる支援を行った（協働会議支援に関しては後述）。

#### <採択者とプロジェクト内容>

以下の4者が採択された。

##### 【前期募集】

- 藤井寛幸氏（株式会社Community Care）：「痛みで生きがいをあきらめない生活」を目指し、リハビリ職が痛みを小さいうちに抑える生活・就業習慣を共に創る「暮らしのリハ室」

##### 【後期募集】

- 吉岡幸浩氏（うんなんプロモーション）：人や本との出会いを創出するとともにチャレンジを実践でき、まちの人のキャリア支援の拠点となるブックカフェの設営
  - 永瀬敬三氏・中澤太輔氏（合同会社EasyGoJapan）：全国でも稀な室内キャンプ場で提供するオリジナルテント作成体験やアウトドア好きのコミュニティ形成を通して日本一魅力的な田舎をつくる
  - そんなさんひょん氏：市内小規模事業者向けの島根県特産品ECサイトの運営
- なお、藤井氏の所属する（株）Community Careは幸雲南塾5・7期生、中澤氏は幸雲南塾3・4期生、さんひょん氏は幸雲南塾スタート8期生である。

#### <採択後における支援内容>

採択者は、採択者の感じている地域課題の解決に向け、それに係る関係者を集め話し合う協働会議を開催した。協働会議では、関係者同士がそれぞれの活動内容そのものやその中で感じている問題意識を共有し合い、課題の解決のために共に考え合える場の創出を目指した。

前期採択者である藤井氏は6月、12月の2回の協働会議を開催した。おっちラボは主に協働会議前に採択者と面談をして課題整理と会議企画の支援を行うとともに、開催時に運営支援を行った。他3氏は12月の採択後1～3回の協働会議ないし関係者による意見交換会を行った。

また、プロジェクトの収益面に関し、藤井・吉岡・永瀬中澤各氏は雲南市商工振興課主催、おっちラボも企画に参画した新事業創出セミナーにおいて、株式会社日本総合研究所（以下、日本総研）大森充氏からのアドバイスを受けた。

採択者	採択者の実践	おっちラボの支援内容
藤井氏	■9月22日（日）第1回協働会議「みんなで考えよう腰痛・ひざ痛ワークショップ」を下熊谷交流センターにて開催。参加者は自主組織、医療関係者など22名（スタッフ含む）	開催に先立ち、開催目的の整理やゴールの設定、当日の内容などについて2度協議の場を持った。開催当日もファシリテーターなどスタッフとして運営に参画。

	<p>■9月22日（日）日本総研大森氏と「暮らしのリハ室」×企業における可能性を協議。企業従業員を対象とした“痛み”にまつわるアンケートの調査項目なども相談。</p> <p>■12月12日（木）第2回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」を阿用交流センターにて開催。参加者は阿用住民・地域自主組織スタッフ、他自主組織福祉推進員など47名（スタッフ含む）</p> <p>■3月26日（木）第3回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」開催を予定していたが、コロナウイルス感染拡大予防のため、開催中止。</p>	<p>場の設定及び調整。</p> <p>開催前に1度内容について協議。当日も運営スタッフとして参画。</p>
吉岡氏	<p>■12月11日（水）・2月18日（火）・3月17日（火）</p> <p>新事業創出セミナー：日本総研大森氏と事業、組織内チームビルディング及びブックミーティング企画に関し、壁打ち。</p> <p>■3月18日（水）に第1回ブックミーティングを開催。</p>	<p>場の設定。</p> <p>開催に先立ち、新事業創出セミナーの内容も踏まえ対象層である中高生に刺さるミーティングのあり方を協議、およびそれに向けたネクストアクションの整理。開催当日はおっちラボスタッフが同席した。</p>
永瀬氏・中澤氏	<p>■12月11日（水）・1月21日（火）・2月18日（火）・3月17日（火）</p> <p>新事業創出セミナー：日本総研大森氏と事業（オーダーメイドできるテント開発、オンラインコミュニティ組成、スペチャレ事業外ではあるが防災用オールインワンボックス）に関し、壁打ち。</p> <p>■2月14日（金）オンラインコミュニティ構想について、友廣裕一氏と壁打ち。</p> <p>■2月17日（月）事業内容と体制の変更について金融機関・市関係者へ報告・協議。</p> <p>■4月中 オンラインコミュニティについての意見交換会開催予定。</p>	<p>場の設定。</p> <p>場の設定及びフォロー。</p> <p>企業内の役割および体制変更等について、事前に永瀬氏・中澤氏と面談。</p>
さんひよん氏	<p>■12月18日（水）雲南市地域振興課 山本章平氏と打ち合わせ</p>	<p>12月はいずれもおっちラボスタッフが同席し、さん</p>

	<p>■12月21日（土）加茂交流センターと協議          ■2月14日（金）地域づくり担当者会議出席          ■3月24日（火）自主組織座談会          いずれも地域自主組織へのIT導入及び業務効率化に向け、地域との対話を通し自身が果たせる役割を模索した。</p>	<p>ひよん氏のフォローを行った。</p>
--	--	-----------------------

**<主な成果>**

- 藤井氏：提供するプログラム「暮らしのリハ室」は、6月に開催した協働会議に出席した地域自主組織を中心に、6組織において導入され、地域住民に対して暮らしの中から痛みを改善する取り組みが展開された。プログラムには大学研究者も参画しており、今後、プログラムの客観的な効果測定が期待される。また、市内の企業がプロジェクトに関心を持ち、従業員に対するアンケートを共催。ひざ痛・腰痛が原因で仕事に支障をきたしていることが明らかとなり、来年度以降、当該企業に対する暮らしのリハ室参入が前向きに検討されている。
- 吉岡氏：キャリアデザイン支援の拠点を学校外につくるということで、学校教育の現場との連携のため、教育支援コーディネーター・学校教師との連携体制づくりを進めた。また、コロナウィルスの影響により支援対象である中高生のヒアリング開催が難しくなったため、急遽知人大学生へのヒアリングに変更・実施。課題抽出をしつつ、支援の提供者として可能性も模索した。ブックカフェ事業は諸事情により事業転換が必要になったが、新たな方向性での支援体制構築のために、改めて関係者との協議を進めようとしている。
- 永瀬氏・中澤氏：コロナウイルスによる中国からのテント材料仕入れ遅延が生じたが、状況に応じた事業展開を試み、材料が到着し次第、クラウドファンディングサービスを通じて開発したテントの販売を開始できる体制を整えている。また、アウトドア好きによるコミュニティの立ち上げを準備中。
- さんひよん氏：市内事業者向けに、ICTセミナーを実施する方向で商工会や県の産業振興財団と調整を実施し、関係性を構築した。また、地域自主組織へのICT導入に向け、複数地域と意見交換を行ない、次年度以降の支援体制の素地を整えた。

**4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務**

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETICの呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手と呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事：岡山県西粟倉村

副代表幹事：岩手県釜石市

参画自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町

事務局：NPO法人ETIC.

### (2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に①**雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）**、②**雲南市で起業する都市部人材の獲得**、③**コーディネーター力の養成**の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の宮城治男代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

さらに平成30年度より、④**地域内のローカルベンチャー機運の醸成**も図って取り組んでいる。

### (3) 令和元年度の協議会における協働内容

本年度は上記①～④のうち、①・②・④に関して事業を実施した。

#### ①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
4月～ 3月	<b>【専門人材の活用】</b> 協議会界隈のネットワークで知りえた専門性の高い人材が、雲南市内においてその専門性と知見を活かしたサポートを実施した。	◎ETIC.の担当コーディネーターより社会的インパクト評価のResearchに長けた <b>細田幸恵氏</b> の紹介を受け、上記財団設立プロセスの研究及び雲南市の基礎データの分析等を実施。 ◎本協議会パートナー自治体の下川町より <b>NPO法人森の生活・麻生翼氏</b> を幸雲南塾アカデミーの講師として招聘。 ◎元同町ローカルベンチャー事務局を務めた <b>長田拓氏</b> より <b>(株)カヤック</b> の <b>佐藤純一氏</b> の紹介を受け、幸雲南塾参加者のコミュニティ通貨の仕組みの助言を受けた。 ◎幹事自治体である <b>七尾市</b> の <b>(株)御祓川・森山奈美氏</b> より、幸雲南塾参加者である実践型インターンチームへの助言を受けた。 ◎幹事自治体である上勝町の資源循環の取組みを推進してきた <b>NPO法人ゼロ・ウェイトアカデミー坂野晶氏</b> を招聘し、雲南における環境系市民活動促進の仕掛けを協議している。

11/7~ 8	<p><b>【ローカルベンチャーサミット】</b></p> <p>①10自治体の首長による記者会見 ②10自治体と都市部の関心ある企業との意見交換の場としてのイベント。竹中工務店やヤマハ発動機も参画して進める「企業チャレンジ」など、雲南市の取り組みを都市部の企業などに発信。また、協議会有志によるローカルベンチャーの資金調達に関する研究会の発表を実施。</p>	<p>◎雲南の取り組みを発信することで、関心を持つ都市部企業が増え複数社から問い合わせあり（住友生命等）。また、メディアにも多数掲載。</p> <p>◎資金調達研究会に協力いただいた<b>(一財)社会変革推進財団の田淵良敬氏</b>が、次年度の本格調査にも協力いただくこととなった。</p>
------------	--	---

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
4月 ～ 3月	<p><b>【企業チャレンジ】</b></p> <p>①本事業の開始にあたり、H31年4月11日に竹中工務店・ヤマハ発動機・ETIC、雲南市の4者で記者発表を行った。</p> <p>②「企業チャレンジ」プラットフォーム運営のため、ETIC.、竹中工務店、ヤマハ発動機、PwCコンサルティング、NTTドコモとの協議を昨年度より引き続き実施。</p> <p>③上記のなかでの具体的課題解決プロジェクトの設計のため、ヤマハ発動機、竹中工務店、ヒトカラメディア、ITイノベーション、日本総研等と協議。</p> <p>本年度は、上記を企業チャレンジ事務局が伴走し、当法人は、これらの企業との将来の連携のための協議に参加するにとどめた。</p>	<p>◎企業チャレンジ事務局である竹中工務店・岡晴信氏との連携により、企業チャレンジや中高生のチャレンジをつなぐ「コミュニティ通貨」を雲南市において導入するプランニングを実施し、実証実験のための資金調達が可能となる見込み。</p> <p>◎ITイノベーションによる住民とのワークショップにおいて、若い女性の活躍する場作りについて活動の方向性が共有され、主体となる方の顔が見えてきた。</p> <p>◎（企業チャレンジの枠組み外）Life is Techを教育委員会に紹介し、同社の提供するプログラミングキャンプが、来年度以降中高生のスペシャルチャレンジの推奨コースとなる見込み。</p>
6/1, 8/24, 12/ 14-15	<p><b>【ローカルベンチャーラボ（開講式・中間合同ラボ・デモデイ）】</b></p> <p>①ローカルベンチャーラボ内に、当法人の理事山元圭太をファシリテーター、副代表理事矢田明子をメンターとする「ソーシャルビジネス」のラボを設置。</p> <p>②デモデイにスペシャレ採択者の吉岡幸浩氏を招待。</p>	<p>◎ソーシャルビジネス・ラボ参加者の<b>作業療法士・落合孝行氏</b>が、石巻より奥出雲町に移住して雲南のコミュニティナースや訪問看護ステーション・コミケアと協働して挑戦することを決めた。また、同参加者で<b>「おてつたび」を運営する永岡里菜氏</b>をうんなん暮らし推進課と接続し、継続協議している。</p> <p>◎吉岡氏のローカルベンチャーラボへの参加動機が高まり、現在参加を協議中。</p>

2/29	<p><b>【地域オモシロ大作戦】</b> ETIC.のプログラムに参加した約40名の起業家等と協議会の各自治体とのマッチングイベント。自治体が地域資源を持ち寄り、起業家がそれと各自の事業との掛け合わせを提案する機会(オンライン開催)</p>	<p>◎以下の5名の起業家（起業検討中も含む）が雲南省の地域資源（木材利用及びスパイス）に関心を持ち、現在現地訪問の調整が行われている状態。また、一部の方には雲南省を実験フィールドとしつつローカルベンチャーラボに参加することを勧めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堀江拓氏：雲南省出身で京都の会社に勤務。理化学研究所と協力し、雲南省でのシロアリ養殖を検討中。</li> <li>・猪俣早苗氏：全国レトルトカレー協会。雲南省の特産を使ったレトルトカレーを</li> </ul>
------	---	---

### ③コーディネーター力の養成

日付	実施内容	成果
6月～11月	<p><b>【資金調達研究会】</b> 協議会有志にて月に1回オンラインで、ローカルベンチャーの資金調達に関するケースの共有やベンチャーキャピタルの方の話聞く会を実施。ローカルベンチャーサミットで成果発表。</p>	<p>◎多様なローカルベンチャーのステージや業態に応じた資金調達手法があることが整理された。</p> <p>◎今後詳細の調査をするうえで協力してくれる人材とつながることができた。</p>

### ④地域内のローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
11/8	<p><b>【ローカルベンチャーサミット】</b> サミット内公開イベント「新たな事業創出のための、自治体×企業連携のための作戦会議」にて雲南省から吉岡幸浩氏が話題提供者として参画。</p>	<p>◎吉岡氏はうまく自事業の価値を伝えることができなかつたと反省していたが、後期スペシャレ・ホープに応募・採択される前段のタイミングにおいて、ビジネスプラン研鑽の大きな契機となった。</p>

### (3) 総括

前述のとおり、①雲南省のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南省で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成のおよび④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携が進んだことにより改善が見られている。

①については、昨年度に引き続き、雲南省内のリソースだけでは解決できない塾生や市内団体の課題に対して、都市部や他地域の人材を繋げることで塾生や市内事業者のアクションが促進されてきている。

②については、雲南で起業する人材を確保できなかった（1名がある事業を小計して起業する目前まで行ったが雲南側の事情で頓挫）ことが悔やまれる。

③については、資金調達の分野でリテラシーを上げることができた。

④については、今年度は地域の事業者や起業家を協議会のプログラムに接続することが十分にできなかった。来年度以降、重点的に強化したい分野である。

#### 4.5. 実践型インターンシップの活用

##### <事業のねらい>

- (1) (おっちラボに対して) 地域内や県外の若者に関わってもらうことにより、おっちラボのプランや活動の進展を助ける。
- (2) (インターン生に対して) 幸雲南塾生のプランニングや活動への関わりや地元の方々との交流を通して、地域課題解決や未来創造に向けた活動に取り組む主体性を引き出す。

##### 【実施内容】

- (1) おっちラボの事業サポート
- (2) 地域住民や団体との交流・ヒアリング・イベント企画など
- (3) 各関係機関にヒアリング・会議への同席など

##### 【参加人数】

長期受け入れ：1名参加（男性1名／11か月／県外出身者）

##### 【主な成果】

インターンを通して、以下のような効果があった。

(1) おっちラボと関係機関や地域自主組織等地域住民との関係性がより良好になったとくに市民財団の設立にあたり、本人も自ら塾生として設立準備に参画し、立場はあくまでも財団準備委員の一員としてではあったが、積極的に地域に飛び出して関係構築に努めた。その結果、財団設立資金集めに大きく貢献したほか、インターン生を通じておっちラボや幸雲南塾の存在を知ったり、より関係の深まった市民や機関が多く現れた。

(2) インターン生が様々な活動に取り組むにあたり、本人の主体性を引き出せたインターン中、塾生や地域住民との関係構築を通して、地域で必要なことは何か、インターン期間中に自分でできることや挑戦したいことは何かを考えて実行していた（添付書類参照）。

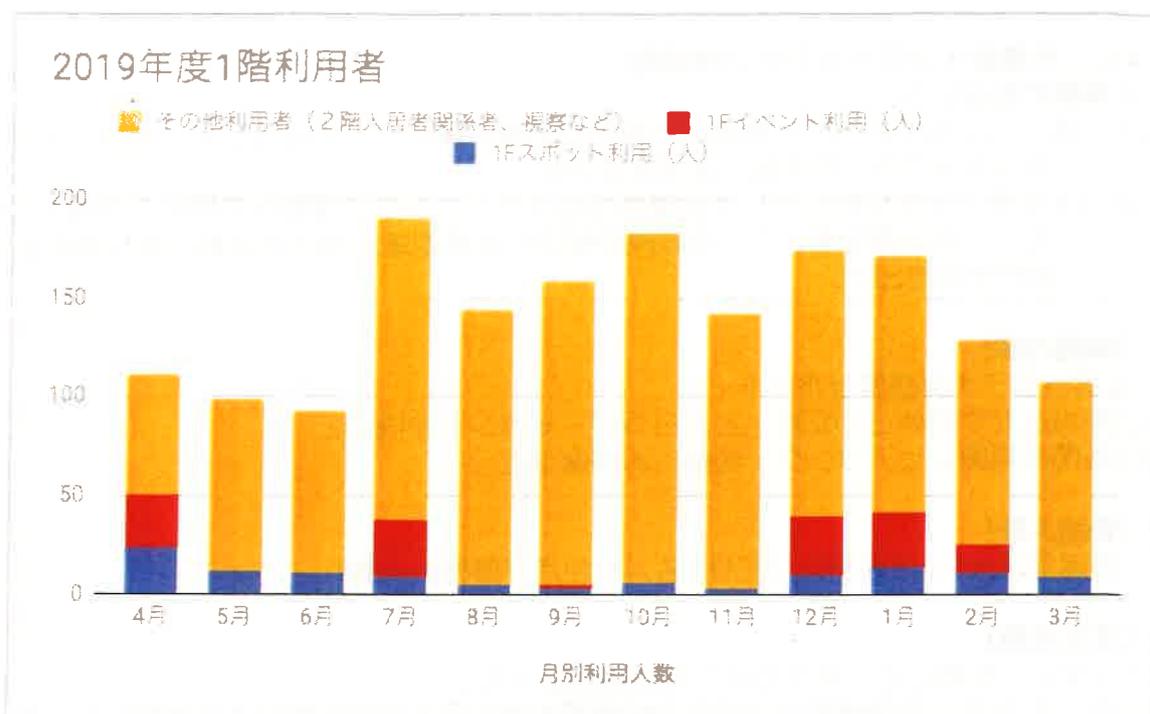
#### 4.6. 三日市ラボの運営

##### <事業のねらい>

- (1) 働く場所の提供
- (2) 地域住民のアクションの増加

##### <実施内容>

- (1) コワーキングスペースの管理運営  
利用者数（延）（H31年4月からR2年3月まで）  
別紙参照



(2)シェアオフィスの管理運営  
利用者について (H31年4月からR2年3月まで)

入居者	内容	本社	席数	期間
NPO法人カタリバ	キャリア教育、不登校支援	東京都	6席	12ヶ月
プランニングオフィス コダマ	調査研究	雲南市	1席	6ヶ月
そんさんひょん	起業型地域おこし協力隊	雲南市	1席	6ヶ月

(3)三日市ラボチャレンジショップ

出店者	内容
雲南	アクセサリー展示販売
雲南	革製品展示
雲南	市内産・加工のお茶(番茶・紅茶)販売
出雲	ポストカード、ステッカー展示販売
奥出雲	出雲民藝和紙アクセサリー展示販売
宮城	アクセサリー、ペンケース展示販売

## 【主な成果】

### (1)働く場所の提供

三日市ラボの主な利用者は、雲南市内利用者では2階の入居者や入居関係者、雲南市外利用者では企業チャレンジ関係者であった。また、配偶者の里帰り出産で約一ヶ月間雲南市に滞在するシステムエンジニアの方の2階テーブルの短期利用もあった。個人の延利用人数の割合としては、雲南市26.8%、島根県（雲南市以外）20.8%、東京都28.3%と東京都からの利用者割合が高かった。

1階の利用は主に2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。一人で立ち寄り仕事をするコワーキング利用者は、前年度の67人から117人と増加しているが、今年度は会議利用も多く117人のうち45人は会議の同席者であるため、実人数は昨年度から11人増加し72名である。年1回のみ利用者は昨年度25人、今年度27名で、近年、年に25名程度は当施設に「ふらっと立ち寄る」状態となっている。

### (2) 地域住民のアクションの増加

今年度は幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。行政関係者では、第一層生活支援コーディネーターや企業チャレンジ等の関係者の会議利用も定期的にあつた。また、2階入居者であるNPO法人カタリバの面談や会議で地元高校生が利用することも増えている。

### (3) 緊急時の協働「雲南コミュニティラボ」

新型コロナウイルス感染対策による小中学校の休校時に2階入居者であるNPO法人カタリバ主催で、1階コワーキングスペースにて約2週間子どもの預かりを行った。三日市ラボ利用にあたってはうなん暮らし推進課に連絡、相談し当日おちラボでも見守りを行うなどした。

## 4.7. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーク力の向上を重点課題とした。

（参考）『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーク力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、ローカルベンチャー推進協議会で提供される研修のほか、下記の研修に取り組んだ。詳細は添付書類を参照。

- (1) 2019年度中間支援組織・支援センター役職員向け合同研修会  
開催：平成31年4月26～27日、岡山県総合福祉ボランティアNPO会館
- (2) システム思考セミナー  
開催：令和元年6月15～16日、TKP御茶ノ水カンファレンスセンター
- (3) ローカルベンチャーラボ特別講義  
開催：令和元年7月13日、ETIC.セミナールーム
- (4) ファンドレイジングジャパン2019  
開催：令和元年9月14～15日、駒澤大学
- (5) SDGs時代に複雑な社会問題に挑むためのパートナーシップ戦略講座 及び  
ゼミ「問いかげ力を磨こう」  
開催：令和元年11月23～24日・12月15日、エンパブリック根津スタジオ
- (6) 助成プログラム・オフィサーのための基礎研修  
開催：令和2年1月10～11日、日本財団ビル
- (7) 大津市SG-Park視察  
開催：令和2年2月21日

## 5. 今後の取り組み及び課題

今年度は、雲南の現状を踏まえ、小さなチャレンジを支え合う市民の繋がりはできてきているため、雲南の持続可能性に大きな影響を与えうる、雲南の可能性を現実にする仕組みづくりに注力する方針とした。その方針に基づき、幸雲南塾2019では、市民の寄付で市の困りごとを解決する市民財団、市民の助け合い（社会関係資本）をつなぐコミュニティ通貨、学生と地元企業双方のチャレンジを促す学生インターンシップの事業化、市民エネルギーを促進する取り組みの4つが本格的に始動した（2件が起業）。スペチャレ・ホープの伴走支援においても、地域にインパクトを及ぼすために、事業の受益者を含む関係者との会議（またはワークショップ）の場をもうけ、より本質的な変化をもたらせる取り組みを模索した。

次のステップとして、上記のような「地域貢献活動の事業化」に加えて、「既存事業者の地域貢献化」という軸も強化して、スペチャレ・ホープに挑戦する市民を増やしていく。そのため、ローカルベンチャーラボや新たに創設する事業創出セミナーと連携して、事業プランニングの質を高めることに注力する（下図参照）。ここにおいて、今まで以上に案件発掘・組成力が求められるため、市民財団、商工会その他の地域内の活動団体との情報共有と相互支援を強化していく。

